

# YMCA News



## 差別のない優しい岩手を未来へ

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

17 パートナースHIPで  
目標を達成しよう



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

シトラスリボンプロジェクトは、コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛の有志がつくったプロジェクトで、三つの輪で出来たリボンを作ったり、身に着けたりすることで、私はコロナ差別をしませんという意思表示になります。

三つの輪は、地域、家庭、職場(学校)を表し、それぞれで「ただいま」「おかえり」と言い合えるような、温かく暮らしやすい街を作っていこう、という想いが込められています。

「ただいま」「おかえり」と言いあえる街なら、安心して検査を受けることができ、ひいては感染拡大を防ぐことにつながります。また、感染者への差別や偏見が広がることで生まれる弊害も、防ぐことができます。

感染者が「出た」「出ない」ということ自体よりも、感染が確認された“その後”に的確な対応ができるかどうかで、その地域のイメージが左右されると、考えます。

コロナ禍のなかに居ても居なくても、みんなが心から暮らしやすい街を今こそ。コロナ禍の“その後”も見すえ、暮らしやす

い社会をめざしませんか?子どもたちにとっても、優しい岩手にしませんか?

【未来を担う子どもたちに渡すのは、差別のバトンではなく、優しさのバトンであって欲しい。恐れなければいけないのは、人ではなく、新型コロナウイルスです。差別をなくし、皆で協力して、正しくウィルスに対処する。優しさでこの難局を乗り越えていく。】

こういう優しい岩手を一緒に作っていきましょう。この優しさのバトンが子どもたちに渡り、バトンを受け取った子どもたちが、コロナが収束した後も、差別のない優しい岩手を作っていってくれると信じています。

シトラスリボンinいわて代表  
魚山 宏

### 盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

# 放課後児童クラブ冬休み報告

## ～ぷらいむ・たいむ本町校～

今年の冬は雪がたぐさん!ということで、子どもたちは外で思う存分雪遊びを満喫しています。雪山を作ってのそり遊びや、男の子たちは力を合わせて鎌倉作りなど...年末には、参加メンバー全員で、普段自分たちが生活している施設に感謝の気持ちを込め大掃除をし、【2021年も放課後児童クラブで遊ぶぞ!!】という気持ちを新たに、新年を迎えるのでした。



そして、迎えた1月4日。大規模な施設トラブルにより、施設を使うことが困難に...全員が「どうしようか。」の不安を抱きましたが、日本基督教団内丸教会の中原先生、陽子先生のご厚意で、教会をお借りできることになり、急遽マイクロバスで移動。年明けからは、内丸教会をお借りしての受け入れとなりました。

普段とは違う空間に、初めは少し緊張した様子が見られ...することもなく、逆に慣れない施設にワクワクドキドキの子どもたち、ここには何かがあるの?あそこに行ってみたい!の気持ちを抑えきれない様子でしたが、少しずつ落ち着きを取り戻し、楽しい日々を過ごしています。教会入り口前に雪山を作り走り回る子たちや、普段使っている放課後児童クラブそばの公園でリーダーと一緒にせっせと鎌倉作り



いそしむ子どもたち、鬼殺隊のごとく、オリジナルの剣を作り、鬼滅の刃ごっこを楽しむ子たちなど、普段とは違う場所、環境だからこそ、限られたもので子どもたちのアイデアが爆発!これからもぷらいむ・たいむ本町校の子どもたちが、のびのびとした生活の中で、たぐさんの学びを得てくれたらと思います。

YMCA本町センター長 浅沼慧

## ～ぷらいむ・たいむ前潟校～

「たまり!終わったよ!見て!」12月29日(火)、2020年最後の放課後児童クラブは、「大掃除」を行い、ピカピカのトイレ、床、玄関、整理された本棚やおもちゃを私に見てほしいと呼びかけられました。年末という事もあり、参加者全員で前潟センター施設の1年の埃を払いました。

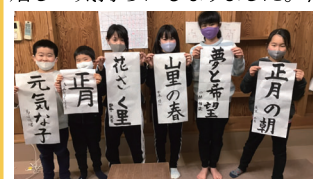
嬉しいことに、当日参加予定ではなかったものの、6年生の男の子が「最後の掃除」だからと言って掃除の時間のみ参加してくれました。その子のお父さんは、「『6年間Yにお世話になったから、掃除だけでも参加したい。』と言っていたので連れてきました。」と仰っていました。

なぜ、大掃除をするのか?この子は今までお世話になった場所、そして思い出への「感謝の心」という答えをしっかりと持っていたのです。



6年生はこの日1名しか参加できませんでしたが、他の3名の6年生も参加はできなかったものの、「掃除したい」という気持ちを持っていたようです。

自分で使った物・お世話になっている物や人への感謝の心は、後輩たちにも伝わり受け継がれる事と信じています。いつもとは違う短い冬休み、感染対策により毎年恒例の餅つきや七草粥などは行うことができませんでしたが、「書初め体験」「前潟カラム大会」「絵本読み聞かせ」など、みんなで行っているからこそ出来る行事を行いました。中でも映画鑑賞は大スクリーンで往年の名番組「8時だよ!全員集合!」を全員で鑑賞。4年生の男の子が、みんなと一緒に見て笑いたいという希望で、DVDを持ってきてくれたのです。「8時だよ～」は現場の子どもたちの大笑いしている声の特徴ですが、前潟校も一緒にみんながお腹を抱えて大爆笑していました。私が子どもの頃大笑いして観ていたものが、40年経っても変わらず、今の子どもたちも大笑いしている姿を見て、何故かホッとしてしまいました。それと同時に、持ってきてくれた男の子の希望も叶い、嬉しい気持ちにもなりました。今はみんなが我慢しなければいけない



時期ですが、笑っていればいつか幸せが舞ってくるはず。

そう信じて子どもたちと過ごしていきたいと感じます。

前潟センター長 東森聡

## ～ぷらいむ・たいむ向中野校～

2020年度の冬休み、ぷらいむ・たいむ向中野校は、年末年始の休みを除くと実質9日間という、非常に短い開校期間でした。今年は雪が沢山降り積もったので、向中野小学校のグラウンドをお借りして行う外遊びでは、雪遊びを思いっきり楽しむ子どもたちの姿が、沢山ありました。氷柱を集めて遊んだり、大きくし過ぎた雪玉を協力して押し運んだり、ジーパンリーダーが雪かきで集めた雪を利用してかまくらを作ったり、雪玉を野球ボールの代わりにしたり、などなど想像力豊かな遊びが沢山生まれていたようです。

学童で行う行事としては、「火災を想定した学童での避難訓練」「ハーバリウムを作ろう」「自分だけのソリを作ろう」、「ぷらいむシアター2021(映画を見よう)」を行いました。振り返ると、短い期間の中で色々なことが行えたなど感じます。

冬休み、私が特に印象に残ったエピソードは、雪山を外遊びのメンバーで協力して作れたことです。ソリ滑りをするため、雪を大量に集めて斜面を作り出そうと、雪を運んでいると、子どもたちやリーダーたちが協力してくれました。雪運び職人、雪固め職人、階段づくり職人、関わるメンバーの中で、自然と役割分担が生まれ、それもとても楽しかったです。当時、粉雪で固まりにくい雪質でしたが、階段付きの、結構大きな斜面が完成しました!「雪山がないならば、みんなで作り出せばいいじゃないか!」そういった気持ちでメンバーとリーダーで遊べたことが、とても良い時間だったと感じます。「遊びは子どものごはんです!」という、私が学生リーダーだった時に、先輩のリーダーから聞いた言葉をふと思い出しました。YMCAが、これからもそういった体験が沢山できる場所であってほしいと思います。

向中野センター長 尾形裕一郎



## ～ぷらいむ・たいむ盛南校～

今シーズンの長期休みは、いつになく雪を満喫できた休みになったと思います!!休み初日こそ季節外れの雨模様でしたが、年の瀬も押し迫ると、そこから一気に豪雪モードに早変わり!子どもたちも一気に『雪ん子モード』に。冷たい冷たい!と言いつつも、頬ぺたを真っ赤にしながらかきゃキャアハハと大盛り上がりでした。

中でも子どもたちにとっていい経験になったのが、隣にある『泣かせてごめんよ』というパン屋さんの駐車場を、自分たちのセンターの駐車場の雪かきと並行して行った結果、お礼に出来立てのパンをもらう戸という出来事だったと思います。始めは、リーダーと朝イチの環境整備の雪かきだったけれど、いつのまにか自分たちが楽しむ時間になり、最終的に人に感謝されるという体験談は、いつまでも子どもたちに残ってほしいなあと思っています。(その日、頂いたパンを早速おやつとして食べたのですが、その時の食パンの味は格別だったと思います。)もちろん、ただの雪遊びでは終わらせず、しっかりとソリ遊びも満喫!盛岡中央公園にて、ソリ遊びもしました。普段、外遊びで作る雪山とは規格が違い、スピードが桁違いだったようです。想像以上の速さ思わず顔をこわばらせる子や、思わぬところで意外な才能を発揮して滑りまくる子、もう怖いからイイと言ってソリでの雪運びに切り替える子など、どの子も雪国の子らしさ全開でした。



一方で、1月4日、新年初日には、室内で書き初めも行いました。習字経験者の学生リーダー“シャベル”を招き、今年にまつわるいろいろをテーマに取り組みました。今年度の冬休みは、新型コロナウイルスの



感染予防のため、出来ること・させてあげられることが限られた中でしたが、今できることをひとりひとりが考えて、精いっぱい 行動していて、結果、子どももリーダーもともに成長できたのではないかと思います。何が言いたいかって、今年も子どもたちと1年頑張ろうって思える新年の幕開けになったということです!

盛南センタースタッフ 菅原歩

# シトラスリボン案内

新型コロナウイルスは、当たり前だと思っていた普段の暮らしに不安や恐怖を与え、差別・偏見を生み出しました。このコロナ禍で生まれた差別・偏見を耳にした愛媛県の有志が、「たとえウイルスに感染しても、誰もが地域で笑顔の暮らしを取り戻せる社会に。」と願いを込めて、つくったのが『シトラスリボンプロジェクト』です。

このプロジェクトは愛媛特産の柑橘類にちなみ、シトラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。リボンやロゴの3つの輪にはそれぞれ、「地域」と「家庭」と「職場・学校」を表しています。「ただいま」「おかえり」と言い合える街なら、安心して検査を受けることができ、ひいては感染拡大を防ぐことに繋がります。また、感染者への差別や偏見が広がることで生まれる弊害も防ぐことができます。

感染者が「出た」「出ない」ということ自体よりも、感染者が確認された『その後』に的確な対応ができるかどうかで、その地域のイメージが左右されると考えます。この『シトラスリボンプロジェクト』は、現在多くの県や自治体、企業にも活動が広がり、岩手でもこのプロジェクトの活動が行われています。

岩手で活動を行っている「シトラスリボン in いわて」という団体では、積極的にイベントへの参加やメディアを通して、『シトラスリボンプロジェクト』に込められた願いやプロジェクトの活動を広めています。盛岡YMCAでもこの活動に賛同しております。会員の方、地域の方々のご賛同・ご協力いただければと思っております。



「嫌悪・偏見・差別を生まない」  
プロジェクトチームチーフ  
大久保里美

## ただいま、おかえりって言いあえるまちに みんなで広げよう シトラスリボンプロジェクト



### STOP! コロナ差別 やさしさにあふれる岩手を

企画：#シトラスリボン in いわて、NPO 法人 RAY of HOPE  
後援：岩手県教育委員会、盛岡市ボランティア連絡協議会、いわてグリーンジャズ楽団  
協力：シトラスリボン from えひめ、シトラスリボン in とちぎ、SoRaStars 株式会社  
連絡先：NPO 法人 RAY of HOPE 080-6293-2740



シトラスリボン in いわて

## 「いじめのない世界をめざそう」ピンクシャツデー2021

盛岡YMCAでは、いじめのない世界をめざしていく取り組みの一つとして、全国YMCAとともにピンクシャツデーを実施いたします。

2007年、カナダのとある学校。ピンクのポロシャツを着て登校した少年が、「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩2人が50枚のピンクシャツを購入、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけたところ、翌日学校では呼びかけに賛同した数百名の生徒が、ピンクのシャツや小物を身につけて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。このエピソードはSNS等で世界中に広まり、今では70か国以上でいじめに反対する活動が行われており、カナダで最初にこの出来事があった日が2月の最終水曜日でした。盛岡YMCAでも毎年、放課後児童クラブ他、各プログラムで子どもたちと一緒にいじめについて話し合い、ピンクのシャツや小物を身につけて、賛同の意思表示を行ってきました。

今回は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、罹患された方々への「嫌悪・偏見・差別」も大きな問題となっています。私たち大人が、この様ないじめに本気で取り組む事で、子どもたちとも本気で向き合っていくものと考えています。保護者の方々や地域の皆様も、子どもたちのために、そしてより良い地域社会を目指すために私たちと一緒にピンクシャツデーを広めませんか。ご賛同・ご協力の程、宜しくお願い致します。

盛岡YMCA職員 大久保里美



#### 〈写真・メッセージのお願い〉

盛岡YMCAでは、ピンク色の服や小物を身につけての写真や、メッセージをお待ちしております。ピンクシャツデーの趣旨・想いに賛同いただきご協力いただける方は、以下アドレスまで写真・メッセージをお寄せください。いただいたメッセージや写真は盛岡YMCAフェイスブック・インスタグラム・ホームページに掲載させていただきます。

[pinkshirtday@moriokaymca.org](mailto:pinkshirtday@moriokaymca.org)

MOMENT (瞬間)

MOMENT  
いつか必ず来るその時まで  
MOMENT  
私に出来ることを為せば良い  
MOMENT  
私に出来るだけのことを

さだまさしさんの「ひと粒の麦～MOMENT～」の一節だ。一作年アフガニスタンで銃撃死した中村哲医師を追悼するために作った曲だと言う。中村医師は九州大学学生YMCAの出身で、長きに渡りパキスタン、アフガニスタンで医療活動に従事された。そこでの病気のほとんどが、十分な食料と清潔な飲料水さえあれば、防げるものだったことから、地域住民と共同して井戸を掘り、用水路を建設した。その結果、約10万人の農民の生活基盤が整えられた。完成までには様々な困難が山積みだったことだろう。氏は、「私たち個人のどんな小さな出来事も、時と場所を超えて縦横無尽、有機的に結ばれています。そして、そこに人の意志を超えた神聖なものを感じざるを得ません。この広大な緑(えにし)の世界で、誰であっても、無意味な生命や人生は決してありません。私たちに分からないだけです。」と、語っていた。

コロナの感染拡大は止まらない。先の見えない状況がまだまだ続く。しかし、中村医師の生き方は僕たちに勇気を与えてくれる。僕たちにできることは、瞬間、瞬間を大切に生きていくことだと思う。重い足を引きずりつつ一歩、一歩と足を前に踏み出して行けばいい。悩みが解決されるわけではない。心が雲一つ無い空のように晴れやかになるわけでもない。相も変わらずどんよりとした気持ちを抱きつつ、とぼとぼと歩んで行こう。しかし、決して一人ではない。そこには、伴に歩んでくれる「何か」がある。伴走してくれる「何か」があるに違いない。

さびしい谷の道 おおしく主は行かれた。  
だれも主と一緒に 歩く者はなかった。  
さびしい谷の道 ひとりではくも行くよ  
だれもぼくと一緒に 歩く者はいない  
はげしい試みを こらえてきみも行けよ  
だれもきみのために 代わってあげられない。  
さびしいこの気持ち すべて主はごそんじだ  
だれも主にたよれば ちからがわいてくる。  
(讃美歌第2編165番 アメリカ白人霊歌)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

● 2021年1月27日現在 敬称略

● 維持会員

廣川健太郎、廣川厚子、廣川はるな、浅沼誠久、花田暉、山崎詩織、林間つきみ野教会照井聖輝、光永尚生、釜ヶ澤亮、斉藤優太、魚住恵、accomman、川坂保広、ガイリンク(株)、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、魚住英昭、清水治彦、若井淳、尾形裕二郎、高瀬稔彦、森山日菜乃、森山幹大、大塚英彦、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵、今野健男、今野聖子、南原良哉、伊藤真一郎、伊藤みどり、石川菜、浅沼恵、浅沼美希、佐藤翔、小川嘉文、小川明佑、阿部深雪、高橋友恵、濱塚有史、濱塚真美、武田理恵子、菅原歩、藤原依音、植田一茂、武田悠、向平悟、向平ひろ、滝川佐渡子、二戸貞文、田村治之、大久保里美、東森聡、田村育代、今野謙治、高橋奈菜、工藤悦子、大開靖二、小山憲彦、伊藤信彦、佐々木隆弘、水田賢次、及川茂夫、菊地弘生、水野暢夫、上中優奈、松尾聡子、増田隆、鶴丹谷三千代、井上修三、井上優子、井上浩太郎、栗谷川香、中原真澄、宮田康男、永山聖子、宮田伸樹、大賀真理、櫻井大樹、大澤秋太郎、和田賢二、織笠友理子、秦江道代、大澤篤人、伊藤真太郎、杉田未来、山口真伸、小林茂元、嵯峨力雄、角谷普治、菊地創、小林昭、千葉浩三、名古屋謙彦、名古屋実和、佐藤洋一、関根伊作

● 寄附金

花田暉、山崎詩織、光永尚生、瀬川利恵、川坂保広、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、高瀬稔彦、今野健男、今野聖子、南原良哉、佐藤翔、高橋友恵、田村育代、及川茂夫、小笠原梨香、菊地弘生、大澤篤人、吉田あさな、武田理恵子

ばすくん



みゆきりか さく  
なみやみわ え  
小学館

ぶらいむ・たいむ盛南校に通う小学1年生の息子に、「家にある絵本で一番好きな絵本は何?」と聞いたところ、「ばすくん!」という答えが返ってきました。

【山奥で誰からも見捨てられた、古い古い“ばすくん”を待っていたものは...】

“ばすくん”は、お客さんの笑顔を見るのが大好き、今日もお客さんを乗せて頑張ります。そんな“ばすくん”のもとに、ピカピカで力持ちの新しいバスがやってきます。それまで、お客さんのヒーローだった“ばすくん”は、新しいバスに人気も役割も取られてしまいます。

「あ～あきょうはおきやくさんの えがおがすくなかったな。」  
「あたらしい ばすには かなわないけど できるかぎりの ことは やらないとね。」

切なさの中でも、健気に頑張る“ばすくん”でしたが、ある日バス会社の社長から山奥のバス会社へ行ってほしいと伝えられるのです。

山道を走ると、泥まみれになり、でこぼこ道で体もきしみます。燃料もお腹いっぱいにはもらえません。でも“ばすくん”は、「お客さんの笑顔が見られる」だけで幸せを感じ、健気に頑張ります。

しかし、ある日...【山奥で誰からも見捨てられた、古い古い“ばすくん”を待っていたものは...】

この絵本が一番好きと言った、我が家の長男。絵本の中の“ばすくん”からきっと色々な事を感じたのだと思います。今を生きていく中で、私たちは何を大切にすべきなのか、その大切にすべきものは当たり前であるがゆえに、見えにくくなり誰からも忘れられてきているのではないか。この絵本を通して、改めて大切な何かを見つけられればと思います。

ぶらいむ・たいむ盛南校メンバー保護者 浅沼慧

3 すべての人に  
健康と福祉を

表紙の写真から

盛岡YMCAの水泳教室のモットーは楽しむこと!!そして、グループの関係を大切にしながら、大きな泳ぎ、ゆっくりでいいから4泳法を長く泳ぐことを目標に毎回のレッスンが行われています。

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。  
ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>  
facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>